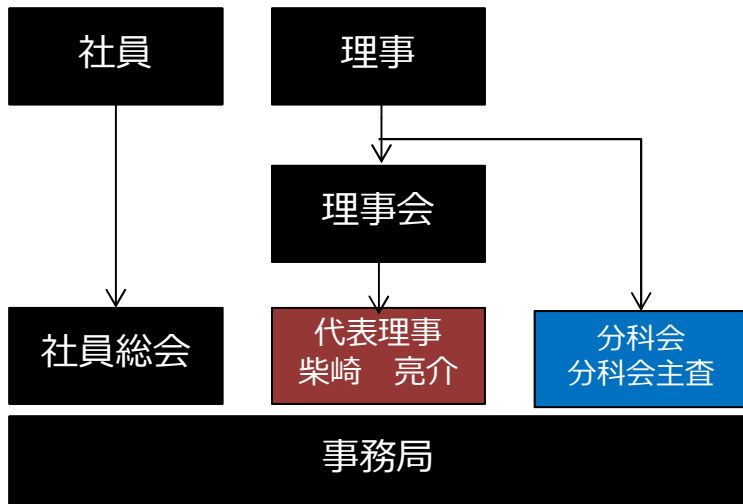


OMOTENASHI Appのコンセプト

2016/9/1

Ver.103



キーコンセプト

次の大規模災害に備える情報伝達・共有手段

グローバル化する地域社会の多言語基盤

インバウンド観光振興のための情報発信

平時と非常時を「地続き」にするアプリ利用

サステイナブルな（持続可能な）エコシステム

情報拠点・基地としての車の利用

測位データ等の利活用

分科会の活動

1. 大規模災害発生時の情報伝達・共有手段を被災地で確保する。
2. 情報から孤立しないよう、外国人を多言語でサポートする。
3. 訪日観光客のWi-Fiサービス利用を全国規模で無償にする。
4. スマートフォンアプリをID連携し、Webアプリにリンクを提供する。
5. 情報伝達のユニバーサルデザインに取り組む。
6. V2Xユニットを使い、車を防災やコミュニティサービスに活用する。
7. スマートフォンのコミュニティ活用に共通基盤を提供する。
8. アプリで取得する測位データ等を地域の活性化等に役立てる。
9. 地域が国際情報発信するためのプラットフォームを提供する。
10. 外国人留学生が自国の言葉で各地を紹介し、訪日観光客等に届ける。
11. 地域のイベントや物産、サービス等を外国人目線で発信、PRする。

What is "OMOTENASHI App" ?

- 訪日観光客向けに開発された無料スマートフォンアプリ。
- ダウンロードしユーザとして登録すると、旅行中に便利なサービスが利用できる。
 - 1) フリーWi-Fi
 - 2) 多言語での災害情報提供
 - 3) 多言語での各地の観光情報 ("IntroJAPAN")
- Wi-Fiは、そのままでも数万、連携アプリへの登録*で二十数万のアクセスポイントを無料開放。
* TravelJapanWi-Fiと連携。全国各地に20万以上のアクセスポイントがある。
- 災害情報の多言語提供を推進。地震と津波、大雨の情報は気象庁発のものを多言語でプッシュ通知できるようにし、地方自治体発のものは自治体に多言語発信できる入力システムを利用開放。(現在準備中)
- 大使館・領事館に対しては、非常時の自国民の安否確認の手段として利用開放。
- 多言語でニュースを伝えられるよう、ニュースアプリやWebサイトと連携。
- 外国人が発信する各地の多言語情報を掲載する"IntroJAPAN"を用意。"OMOTENASHI App"ユーザは旅行中に参照でき、海外からもアクセス可能な情報サイト。
 - 1) "OMOTENASHI App"ユーザが情報を発信・共有
 - 2) 日本にいる外国人留学生等がその目線で「地域」を発信
 - 3) 既存の日本情報サイト等とも連携 (現在準備中)

“OMOTENASHI App”のインバウンド観光振興策

「日本への導線」

訪日してもらうために

- ・ 日本各地の情報を現地の言語でWeb情報発信
- ・ 現地テレビ番組等との連携企画
- ・ 旅行会社や航空会社、雑誌等との連携

「日本のファンの育成」

帰国後にもつながるために

- ・ Webアプリでの旅の思い出サービス
- ・ 日本再訪に誘うWeb情報発信
- ・ 海外での日本イベント等との連携

「日本国内でのもてなし」

国内の旅を充実するために

- ・ フリーWi-Fiサービスの提供
- ・ 安心のための災害情報提供
- ・ 自国語での観光情報提供
- ・ もてなしのキャンペーン企画
- ・ 旅の支援（コンシェルジェ）
- ・ ナビゲーション

“OMOTENASHI App”が目指す多言語対応力

1. 「災害が多くて危険な国」ではなく「災害は起きるけれど安心な国」へ。



○ 大規模災害発生時に訪日観光客を孤立させないよう災害情報を提供

- ・災害情報がアプリに届くよう、多言語で用意したメッセージをプッシュ通知する情報システムを自治体等に利用開放。
- ・気象庁発の地震、津波、大雨は、外国語で自動的に届く仕組みを用意。
- ・大規模な自然災害についての日本の外国語ニュースに簡単にアクセスできるように誘導。



○ 大使館・領事館の職員が災害やテロが発生したときに自国民の安否確認ができるよう支援

- ・自国の国籍を登録しているアプリユーザに安否確認等のメッセージをプッシュする情報システムを用意。
- ・あらかじめメールアドレスやSNSアカウントの登録を旅行者に大使館・領事館が求めなくても利用できる。

2. 何度も日本に来てくれる日本のファンを育てる。



○ 日本各地の写真とメッセージを外国語で発信する情報サイトを開設（IntroJAPAN）

- ・帰国してからも日本に関心を持ち続けてもらえるよう、その国の言葉のコンテンツを検索できるWebアプリを開始。
- ・日本を旅する間に利用できる旅支援アプリとして、既存の情報サイト等の様々な取り組みとも連携。



○ 全国各地が自身の魅力を外国人の目線で発信できるよう支援

- ・全国の各地が世界に情報を発信していくプラットフォームを構築し、地域に利用開放。
- ・外国人目線で日本の魅力を発掘、発信するために、アプリユーザに参加してもらうキャンペーン等を企画。
- ・外国人留学生が小旅行して地域やその特産等を発信してもらうプログラムを実施。

3. 言葉の壁を低くする。



○ 全国各地のWi-Fiアクセスポイントの利用をアプリユーザに無償開放

- ・インターネットに無償で接続できる環境を全国各地に拡げて、自動翻訳等のアプリケーション利用によりコミュニケーションを支援。
- ・大都市や特別な観光地だけでなく、全国各地で広く利用できるフリーWi-Fiネットワークを構築。
- ・複数のWi-Fi事業者のサービスがシームレスにつながるようし、利用登録等の面倒な手続きを簡素化。



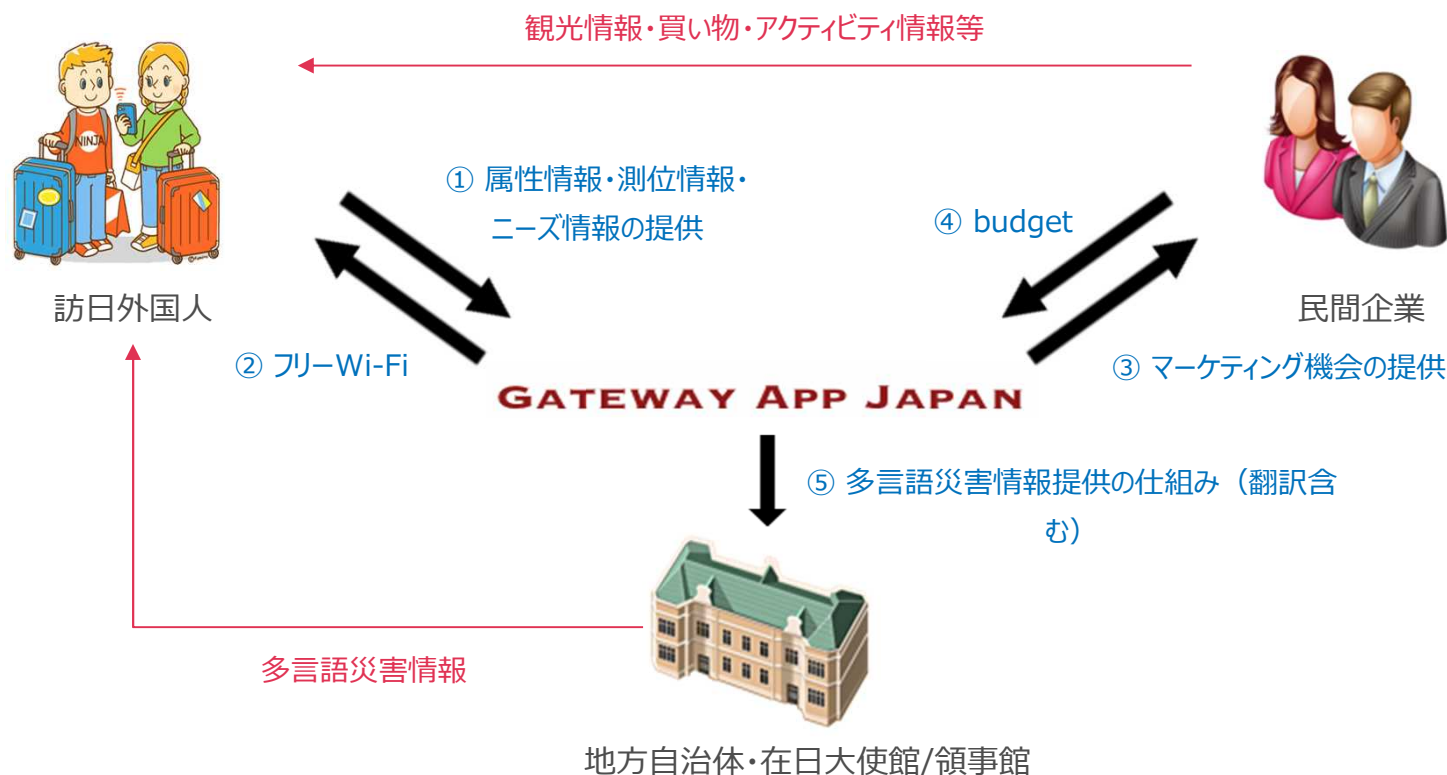
○ 日本に暮らす外国人と地域社会で共生するための人的ネットワークを育てて活用

- ・日本に暮らすバイリンガルな外国人の翻訳力を活かして他の外国人を互助する仕組みを用意。
- ・日本に暮らしていればこそ知っている情報を同胞に発信してもらえるよう工夫。
- ・被災地の「内」の外国人を「外」の同胞が支えられるよう、普段から国内外に人的ネットワークを構築。

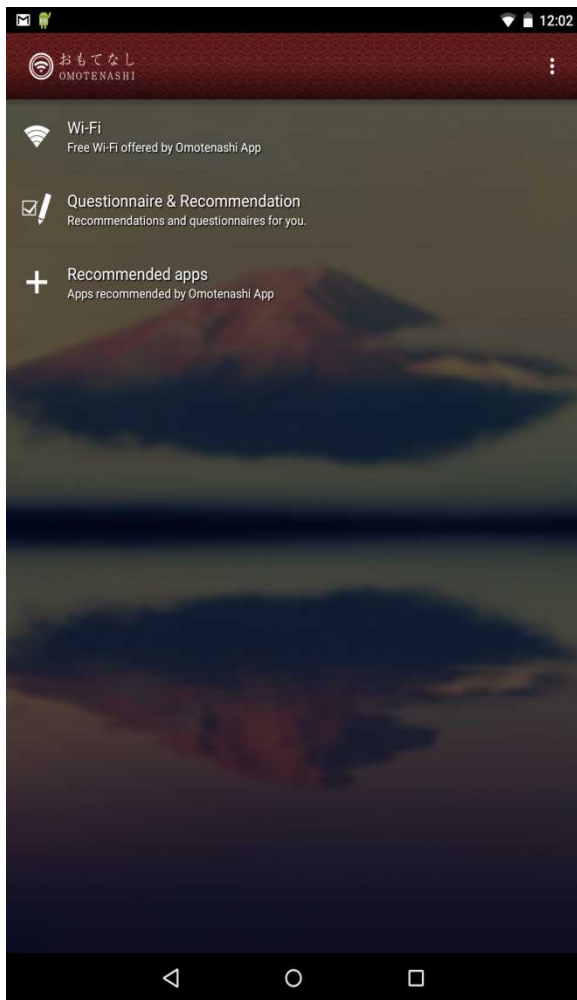
“OMOTENASHI App”のエコシステム

“OMOTENASHI App”は、外国人旅行者へのフリーWi-Fiサービス・多言語災害情報を提供するのに、本人の同意の下、属性情報・測位情報・ニーズ情報を取得し、活用します。

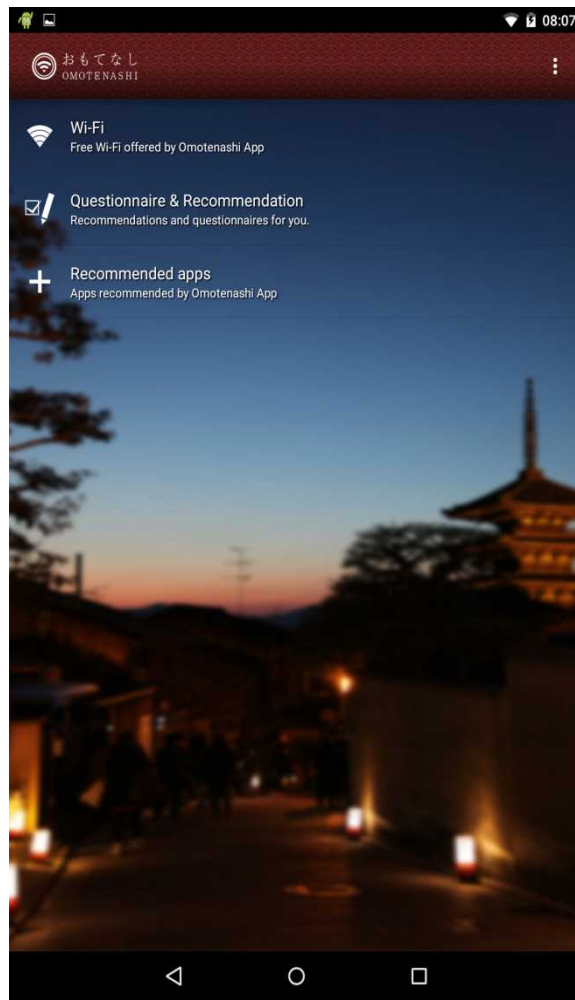
この情報をうまく旅行者のもてなしに利用するとともに、地域の施設や産品、サービス等の情報を近くにいる人に選択的にプッシュ配信するなど、地域の活性化に役立てる仕組みを作ることで、サステイナブルなエコシステムを構築していきます。



"OMOTENASHI App"UI (ホーム画面)



ホーム画面 (朝)

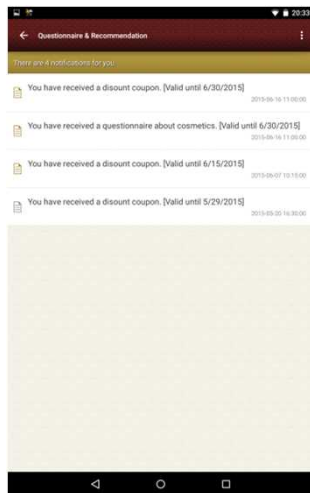
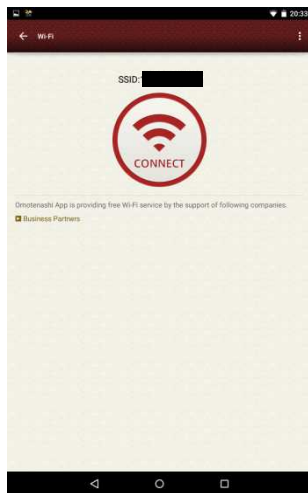
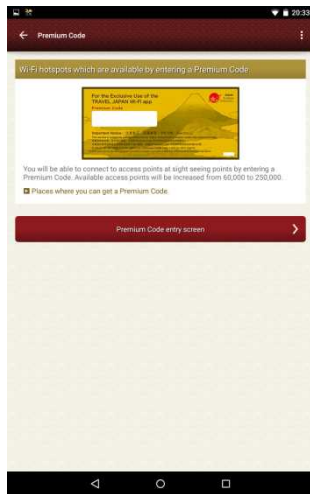
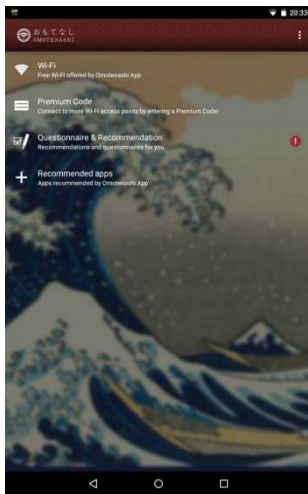


ホーム画面 (昼)



ホーム画面 (夜)

”OMOTENASHI App”の沿革と計画



2015年春

- ・経済産業省の調査案件用のモデルをリリース
- ・外務省外国人課との連携開始

2015年夏

- ・正規版（アンドロイド版）をリリース

2015年秋

- ・外務省の在日公館向け説明会で紹介
- ・大使館・領事館への説明

2016年春

- ・大使館等で調査・実証の実施
台北駐日経済文化代表處
ブラジル大使館・領事館
- ・神戸市、加古川市等の複数自治体で調査を実施
- ・熊本地震の発生後、被災地支援で総務省プログラムと連携

2016年夏

- ・iOS版をリリース
- ・TJW（トラベル・ジャパン・ワイファイ）との連携開始
- ・APU(立命館アジア太平洋大学)外国人留学生の情報発信プログラム始動

2016年秋

- ・“IntroJAPAN”プロジェクトの始動
- ・多言語災害情報提供システムを実装
- ・コミュニティアプリのリリース

“OMOTENASHI App”の通信環境&プラットフォーム&コンテンツ (イメージ)

- “OMOTENASHI App”をゲートウェイに、様々なアプリケーションやリンクを紹介。
- 自身が提供するフリーWi-Fiサービスや災害情報のほか、全国各地の情報提供など、日本の旅を支援するサービスを用意。
- サステイナブルであるために、継続可能な事業モデルと運営体制を地域の事業者等に参加してもらいながら構築。

様々なスマートフォンアプリとのID連携や、Webアプリケーションとのリンク



防災・減災の分野



観光の分野

Gateway App という“共通アプリ基盤”

- ・共通アプリ基盤 = 他のスマートフォンアプリとのID連携やWebアプリへのリンクを提供するゲートウェイを提供
- ・フリーWi-Fiアプリとしてダウンロードする訪日観光客を、日本を旅するのに安心して便利なサービスに誘導
- ・全国各地が地域の情報を多言語で発信することができるプラットフォームとして“IntroJAPAN”を紹介
- ・ユーザの属性やニーズに合ったアプリケーションを選択的に提供



いつでもネットにつながる**通信環境**の整備

- ・訪日観光客にフリーWi-Fiサービスを提供（全国各地で使えるよう、20万以上のアクセスポイントを用意）
- ・一部の観光スポットだけでなく広域にWi-Fiスポットを整備 = 既設設備等の有効利用
- ・LTE/3Gのデータ通信が利用できるSIM普及
- ・一般車にも車載されていくV2Xを利用して整備し、地域の情報通信基盤としても育成

“OMOTENASHI App”の中期・長期的展望

「外国人旅行者」向けサービス → “OMOTENASHI App”



「在住外国人」「日本人」向けサービス → 「コミュニティアプリ」(仮称)

OMOTENASHI Appの仕組みを国内向けサービスとして展開し、「コミュニティアプリ」(仮称)として提供。

オープンデータ化した自治体情報とモジュール化した自治体アプリ(子育てアプリ、ゴミ出しアプリなど)を組み合わせるサービス化する「共通アプリ基盤」を実現することで、全国の自治体やコミュニティが平時から活用できるアプリを実現し、非常時の災害情報等が日本語を含む多言語で届く環境を実現。

= 生活インフラとしてスマートフォンが暮らしに役立つための諸機能の実装



「コミュニティアプリ」(仮称)を在外邦人向けにも機能させる

自治体・在日大使館／領事館向けに開発・提供する多言語災害情報提供機能のモジュールを利用して、海外の危険区域内、またはその周辺にいる在外邦人にプッシュ通知で危険を知らせることも可能。

国内で普段利用している「コミュニティアプリ」をそのまま海外に持ち出すと、海外では平時は海外のガイドとして利用できて、非常時にはプッシュ通知で危険を知らせてくれるアプリになるよう検討。

“OMOTENASHI App”の登録情報と測位情報

- “OMOTENASHI App”では、氏名、住所等のセンシティブな情報の登録は求めない。国籍、利用言語、年齢、性別、団体か個人か、といった、情報に限る。
- メールアドレスの登録はWi-Fi提供の認証のため。他の目的に利用せず、外部にも提供しない。
- 20万以上のアクセスポイント利用には、連携するフリーWi-Fiサービス（トラベルジャパンワイファイ）への登録と許諾が別に必要（しなくても、数万のアクセスポイントの利用は可能）。連携先での情報の収集や利用は、連携先のプライバシーポリシーによる。
- 全国各地の情報の国際発信プラットフォームを目指す“IntroJAPAN”は、アプリケーションとしては独立しているものの、“OMOTENASHI App”から主に誘導。しかし、“IntroJAPAN”は、そのアプリとしてのサービス提供に必要な情報の登録をアプリユーザに対し求めるので、当面、写真とメッセージの利用に関する許諾は画面上で求める。
- “OMOTENASHI App”は、googleやアップルが提供する機能を利用してエリアを限定した着信サービスを提供する。
- アプリユーザの測位情報はGPSを使って測位したデータを東大の研究所が保管し、学術用途に利用することがある。その旨は、“OMOTENASHI App”のプライバシーポリシーに記載する。